

手軽に
ごみ減量

段ボールコンポストの使い方



段ボールコンポストとは?

段ボールを容器に使う「生ごみ処理器」です。段ボールは通気性が高く、微生物が活発に活動できるので、生ごみが分解し堆肥となります。

1. 用意するもの

市から支給するもの(1セット)

- 段ボール(二重構造)
傷みが気になるときは同程度の大きさの段ボールに移し変えてください
- ピートモス(15L)
- もみ殻くん炭(10L)
- 底敷き段ボール

家庭で準備するもの

- 温度計(初回のみ支給)
- 防虫布カバー(4セットに毎に支給)
- 布テープ、新聞紙(1日分)
- プラスチック製のスコップ、おたま

2. コンポスト容器をつくる

① 段ボールを組み立て、底や四隅、合わせ目などを布テープなどでしっかり留め、新聞紙→底敷き段ボールの順に敷きます。

3ヶ月を目安に使用します。補強はしっかり!

底に新聞紙を敷き、その上に底敷き段ボールを敷いてください。箱が壊れにくくなります。

② 通気性を良くするために、容器の下に台を設置します。
※金属網や角材などを使って台をつくります。
ビールケースなどのコンテナケースや、苗床も台に適しています。
上下左右、風通しを良く

③ 布などで容器を覆います。
※虫や小バエが容器の中に入り込むのを防ぎます。
厚手のトレーナーやバスタオル 全体を覆える大きな座布団袋など

寒い時期は不要な毛布をかけると保温できます

3. 基材(きざい)をつくる

「ピートモス」「もみ殻くん炭」を容器に入れ、水分(米のとぎ汁など)を加えて均一に混ぜ合わせ、軽く握って団子になる程度になれば準備完了です。

生ごみの量が少ない場合は、入れる量を半分からずつにすると、かき混ぜやすくなります

4. 生ごみを投入する

- 1日あたりに投入できる量は500~700gです。(三角コーナー1杯程度)
- ※ 生ごみは早めに容器の中へ!(詳細は裏面)
- 大きい生ごみは小さくして入れると分解しやすくなります。
- 生ごみは適度に水気を切って投入します。



◆ 基材がパサパサに乾燥しているときは、コップ1~2杯程度の水を入れる。
※ 微生物による生ごみの分解には水分が必要です。基材がほんのりと湿っている状態を維持してください。水分が多すぎると、分解が遅れ、カビの発生や段ボールを傷める原因となりますのでご注意ください。



好き	苦手	嫌い	興味なし
甘いもの お菓子 果物 油っこいもの ぬか 肉・魚 天カス 新鮮なもの	酸っぱいもの 塩辛いもの 玉ねぎの皮 とうもろこしの芯 腐ったもの	洗剤 煙草の吸殻 竹の子の皮 カレーのルーは 元気がなくなる	プラスチック類 割り箸 爪楊枝 貝殻 間違っって入ったら 取り出して

5. 毎日の管理

開始して2週間程度で分解が本格化し、徐々に温度が上昇します。

微生物は空気と触れることにより、生ごみの分解を進めます。ごみの投入が無い日も、すみずみまで新鮮な空気を送るようによくかき混ぜましょう。

生ごみが表面に出ていると臭いや虫の発生につながります。動物性のものは基材の中に隠すようにしましょう。

防虫・防臭のため投入時以外は、布などで覆います。

Memo
雨や湿気で容器が傷んだら
日に干せば回復しますが、傷みがひどい時はスーパーなどで新しい段ボールをもらって移し替えるとよいです。

使用者の方に伺った成功のコツは「よく混ぜること」でした!

6. 使用期間について

1箱で約3ヶ月くらい使用できます。
生ごみの量にして約30~45kgを処理することができます。

終了の目安

- 分解に時間がかかるようになった
- 全体的に黒っぽく、もっちりしてきた
- 中身がベタついてきた
- 塊が多くなってダマの状態になった

Memo
長持ちさせたい
新聞紙やビニールを敷いた上にコンポストの中身を出して上下を入れ替えるともう少し長く使えます。

7. 堆肥として使うには

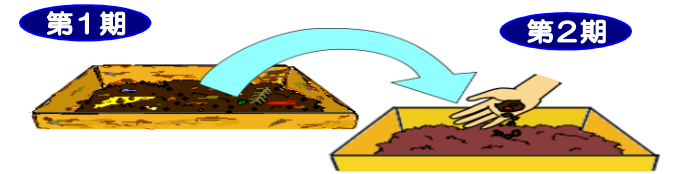
生ごみの投入を止め、1週間くらいは残った生ごみを分解させるため毎日かき混ぜます。(乾燥したら水分補給を)
その後1~2ヶ月ほど放置して熟成させれば堆肥として使えます。
土に埋めて熟成させてもOK!

投入完了 → 水を入れかき混ぜる → 熟成 → 段ボールのままか、土の中に埋める。 → 肥料として使う!

注意
未熟な堆肥の使用は根腐れの原因になります。

8. 第2期の開始

第1期の終了が近づいたら第2期の準備を始めましょう!
配達は通常2~4週間かかりますので、早めに次セットの依頼を!
第1期の中身(分解しづらい物)を少量、第2期の段ボールに入れ、かき混ぜると微生物が引越すことができるので、分解が早まります。



9. その他

- ◆ 1回の申請で4セット/年まで支給します。
- ◆ 原則として1セットずつお渡しします。
2セット目以降は必要に応じ、下記までご連絡ください。
(セットの支給はおおむね3ヶ月ごとが目安です)
- ◆ 4セット完了ごとに再度申請し継続することができます。
- ◆ 初回の申請と同一年度内に「生ごみ処理容器貸与」と「生ごみ処理機器購入補助金」を受けることはできません。
- ◆ 容器の破損や不具合がある場合などは、下記連絡先までご連絡をお願いします。
◆ 裏面のQ&Aもご覧ください!

【連絡先】

大分市役所 ごみ減量推進課
ごみ減量・リサイクル推進担当班
大分市荷揚町2番31号
TEL: 097-537-5687
E-mail: gomigen2@city.oita.oita.jp

段ボールコンポスト Q&A

生ごみのひと絞りで約40%の ゴミ減量!



設置編 ?

Q ピートモスとは?

A ミズゴケ、シダなどを乾燥・粉碎したものです。通気性(排水性)や保水性がよく、微生物の住み家となるすき間が多いため、理想的な土壌改良剤として園芸用資材等に利用されています。

Q もみがらくん炭とは?

A イネのもみ殻を蒸し焼きして炭化させたものです。ピートモスの酸性を弱め、臭気も弱めます。土中の微生物の動きを活発にさせます。

Q どこに設置したらいいの?

A 小バエやダニなどが発生しますので、なるべく戸外に設置した方がよいです。置く場所は、風とおしのよい軒下などの**雨に濡れない場所**に置いてください。温度は15℃以上になる場所が理想的です。

Q 台は必要なの?

A 段ボールを直接地面に置くと、**底部分の通気性が悪くなり、生ごみが分解する際に発生する水分(水蒸気)の蒸発が妨げられ、カビの発生や段ボールを傷める原因となります。** また、壁から5センチ以上離して置くと、通気性がさらに上がります。

重要

Q 覆い(カバー)は必要なの?

A 小バエなどの虫が侵入しにくくするために必要です。小バエ対策は、生ごみにハエが卵を生みつける前に投入することが肝心です。投入後はよくかき混ぜて、基材を上からかけて生ごみを隠します。防虫布カバーは下記のような使い方もあります。



① 基材を入れた防虫カバーに生ごみを投入



② 左右に大きくふる



③ 段ボールに戻す

実施編 ?

Q 入れてはいけないものは?

A ■微生物が分解できないもの
・貝殻、割りばしや爪楊枝、ビニール、プラスチック類、ゴムなど
■微生物によくないもの
・塩分を多く含むもの
・ねぎ類(少量であればOK)
・洗剤や漂白剤、タバコの吸殻など
■分解しにくいもの
・硬い皮や種、とうきびの芯、卵の殻、肉の骨、柑橘類など
※細かくすれば、分解が早まるものもあります。
※柑橘類の皮に含まれるオレンジオイルには、たい肥化するために必要な発酵・熟成の妨げになる成分が入っています。

Q 臭いはするの?

A 段ボールコンポストでつくる堆肥は、土や腐葉土のような臭いがありますが、うまく管理ができていけば気にならない程度の臭いです。臭いが出るのは下記のような場合です。
●十分にかき混ぜず、酸素が不足している。
●大量に、動物性たんぱく質を入れている。
●生ごみを入れすぎたり、水分が多い(水分がなくなるまで生ごみをいれないで、しっかりかき混ぜを行ってください)

Q 臭いがするときには?

A 臭いがするときは、投入を控え次のことを試してみてください。
●よくかき混ぜる。
●茶がらやコーヒーがら、みかんの皮やミントなどのハーブ類を入れる。
※ほとんどの場合2~3日で消えますが、どうしても臭いが消えない場合は、中止して土に埋めてください。

Q 基材の水分量の目安は?

A 基材を手でぎゅっと握っても水分が出なくて、手を開いても土だんごが崩れない。指でつつくと土だんごが崩れる程度が目安。水分が足りないときは米の研ぎ汁で補給するとよいです。



基材を軽く握って団子になる程度が望ましいです

Q 生ごみが分解する温度は?

A 基材の温度が外気温より5~10℃程度高ければ微生物はちゃんと活動しています。水分が多すぎると、温度が低くなります。

Q 生ごみの分解が始まらない!!

A 生ごみの投入を始めて2週間くらいは、基材の中に微生物が殆どいないため、すぐには分解が進みません。生ごみを入れて、しっかりかき混ぜていくうちにだんだんと温度が上がり、分解が進むようになります。それまでは生ごみを控えめに入れるくらいがいいでしょう。

重要

Q 虫やカビが発生したときは?

A 虫やカビが発生しても失敗ではありません。気になる場合は、基材の温度が高くなるようにして、毎日数回きちんとかき混ぜると発生しにくくなります。定期的に温度を上げることで虫の発生を予防することができます。表面にできる白カビは好気性菌で人体に無害です。基材とよく混ぜあわせてください。

※夏場はどうしても害虫が発生しやすいですが、ひどくなった場合は、生ごみの投入を一旦やめて、害虫が減少してから再開してください。黒色のポリ袋に入れ夏なら1日、冬なら1日~2日程度日差しが強い場所に置くと、熱により死滅させることができます。ダンボールが水分などで傷んでいるようなら、取り換えてください。

Memo

生ごみを放置しない!

生ごみはできるだけすぐに容器の中に入れてください。
台所に生ごみを放置すると虫が卵を産みつける可能性があります

その他 ?

Q 何日か留守にするときは?

A できれば数日前から生ごみの投入を中止してください。よくかき混ぜて、できるだけ涼しい所に置きます。再開するときは、暖かい所に置き、よくかき混ぜてから始めてください。

Q 中止したいときは?

A 臭いや虫などの発生により中止するときは、庭などの土に埋めてください。